

はじめに

葬儀は故人への惜別とその冥福を祈る厳肅・莊重な人生の最重要儀式であることは申すまでもありません。

昔から伝えられていた地域差・宗教差によるしきたりの違いや、儀式観のちがい。

しかも何十年に一度あるかないかということであり、また誰もが避けて通ることができたらと願っていることでもありますので、他の儀式や行事に比べて理解しにくい部分が多いのではないかと思われます。地域によって、習慣も様々ですが、ここでは一般的な仏教でのご葬儀の流れについてかかせていただきます。

不幸がおきたら

何はともあれ、まず、近親者へお知らせをして、一刻も早くお越しを願って、葬儀を中心とした死後のいろいろなことを、どのようにするか、相談しなければなりません。

病院で亡くなられたときは

病院での遺体処置が終わると普通はすぐに帰宅ということになりますので、病院からお宅までの寝台自動車を用意する必要があります。

担当の看護婦さんに「〇〇葬儀社の寝台車を呼びたい」とお申出になれば、たとえ深夜であっても電話一本ですぐに病院にお伺いして、ご自宅までご遺体を搬送するお世話をいたします。

自宅で亡くなられたときは

自宅で、お医者さんの診断を受け、ご臨終ですといわれた時はすぐに葬儀社に電話して下さい。お名前、ご自宅の住所、話番号と簡単な自宅までの道順を教えて頂ければ、ご自宅までお伺いし、枕元の祭壇、ドライアイス等を準備させて頂きます。

地方で亡くなられたときは

現地の状況・病状・家の事情などにもよりますが

- ①地元で葬儀をする場合は現地の靈柩寝台自動車で自宅まで搬送します。
- ②道外の場合は航空機による搬送もできますので、現地空港の航空貨物係へ問い合わせるとよいでしょう。